

アルウラ王立委員会の支援による研究により、「カイト」と呼ばれる古代の巨大な動物捕獲器に関する新たな知見が得られました

- 古代最大の建築物である巨大な動物捕獲器の分布とその地理的範囲を拡大する研究
- 動物たちは収束する石垣に沿って何百メートルも走らされ、突然の絶壁や隠された穴へと追いやられました
- RCUはこのような研究を通じて、地域の文化遺産をさらに明らかにしており、考古学の拠点である王国研究所の知的基盤となっています

アルウラ、サウジアラビア、2022年10月25日 /PRNewswire/ -- 「砂漠の凧」と呼ばれる古代の石造りの動物捕獲器に関する査読付きの新しい研究により、後期新石器時代の高度で広範な野生動物の狩猟が明らかになり、過去のこの地域の人々の創意工夫とおそらく共同作業の性質が示されました。

マルチメディア・ニュースリリースはクリックしてご覧ください。

<https://www.multivu.com/players/uk/9102251-research-supported-by-royal-commission-alula-insights-into-ancient-animal-traps/>

上空から見ると、昔ながらの子供用の凧のような形をしていることから、1920年代に飛行家たちが「カイト」と名付けました。しかし、この巨大なモニュメントの起源や機能については、これまで議論がなされてきました。

砂漠の凧の第一人者であるレミー・クラサード博士は、この時代の古代建造物の中では最大級であると指摘しています。ヨルダン南部にある最古の凧は、紀元前7000年頃のものだとされています。アラビア北西部で新たに発見された凧の年代はまだ確定していませんが、後期新石器時代から青銅器時代（前5000-2000年）への移行期にまたがるようです。クラサード博士は、フランス国立科学研究センター（CNRS）に所属しているほか、RCUとその戦略的パートナーであるアフアルーラ（フランスのアルウラ開発機関）がスポンサーとなっているカイバル・ロングデュレ考古学プロジェクトの共同ディレクターでもあります。20年前には700から800の凧が知られていましたが、現在は約6,500、その数はまだ増えていると推定しています。

クラサード博士のチームは、サウジアラビア、ヨルダン、アルメニア、カザフスタンで行われた最近の調査に基づいて、凧は家畜化ではなく狩猟に使われていたこと、「動物を捕らえるという人間の戦略に大きな変化をもたらした」こと、「これらのメガトラップの発達は、景観に壮大な人的影響を与えた」と断定しました。凧は自給自足のレベルをはるかに超える狩猟を引き起こし、「食料生産と社会組織に関連した象徴的行動の増加」に関係していたのかもしれませんが。その結果、ガゼルなどの野生種は移動経路を変え、他の種は狩猟によって絶滅した可能性もあります。

サウジアラビアでは、西オーストラリア大学のRCU派遣チーム「エアリアルアーケオロジー・イン・サウジアラビア-アルウラ」のレベッカ・レッパーが率いる研究により、アルウラ郡でこれまで知られていなかった207個の凧が検出されました。これらは、特に死火山のある高地、ハラット・ウエイリッドに集中しています。その結果、他の地域の凧とは異なり、V字型の凧が主流であることが判明しました。凧の形は、V字型、「くつした型」、「はたおり型」、W字型など、さまざまに表現されています。

この地域の凧はどれも、低い石垣を並べた駆動線を持ち、穴や断崖絶壁などの罠に動物を誘導するものでした。アルウラ凧のドライビングラインは平均して約 200m の長さです。しかし、他の場所では何キロも続くこともあります。レPPERさんによると、罠の長さが短いのは、猟師たちがその土地に精通し、既存の景観が動物の動きを自然に制限する場所に罠を設置したことを示しているそうです。また、凧の配置は、狩猟者が獲物の動きを熟知していたことを示唆しています。

アルウラ地方で記録された凧は、獲物を突然の絶壁に誘導する傾向がありますが、他の地域の凧は隠された穴の中で終わることが多く、一度の狩りで何百頭もの動物を殺すことができました。この違いは、その土地の地形に適応したものか、あるいは罠狩りの進化型である可能性があります。

クラサード博士は、オリビエ・バルジュ博士 (CNRS) が最近発表した凧の種類の相対年代に関する研究に、カイバルの凧に関するデータを提供し、この地域での航空考古学チームの研究を補完するものです。カイバルでは、伝統的な砂漠の凧と、罠や穴で囲まれた明確な囲いを持たない原始的な凧の 2 種類が区別されています。研究チームは、この原始凧が砂漠の凧の前身であった可能性を示唆しています。より複雑な凧は、あまり日和見的でなく、より正式な狩猟技術を反映しているのかもしれませんが。

RCU の考古学および文化遺産調査担当理事であるレベッカ・フーテ博士は次のように語っています。「これらの研究は、アラビア北西部の人々の豊かな文化遺産に対する我々の理解を深めるものであり、今回は先史時代の慣習についてより詳しく説明するものです。今回の研究は、ムスタティルと呼ばれる大規模な儀式用建造物の建設など、この地域の新石器時代に関するこれまでの発見を発展させたものです。RCU が支援する考古学的フィールドワークの秋のシーズンに向けて、韓国、フランス、オーストラリア、ドイツ、その他の国々からのチームとともに、アルウラに考古学的研究と保存の世界的拠点を作るという我々の野心的計画の一環として、より多くの洞察に満ちた発見を期待しています。」

その拠点である王国研究所は、現在研究機関として活動しており、2030 年までにアルウラで物理的な拠点を開設する予定です。RCU が支援するアルウラ周辺の研究は、キングダム研究所に情報を提供するための知識ベースを増やしているのです。RCU は、2035 年にアルウラが年間 200 万人の訪問者を迎えるまでに、この研究所が一流の目的地になることを期待しています。

アフアラーラの考古学・文化遺産担当ディレクター、イングリッド・ペリセ・ヴァレロ博士が言います：「アルウラとカイバルでこれらの新しい凧が記録されたことは、人類の進化と自然環境との関係の歴史において重要な節目となった、これらの狩猟構造の起源、発展、普及について重要な展望を開くものです。フランスの専門家であるレミー・クラサード博士を含むこれらの国際的なチームによる画期的な研究は、衛星画像解析と現地調査の結果を組み合わせたもので、これらの構造物に関連する材料を分析することによって、正確な年代と機能を提供する唯一の方法であると言えます。現在進行中の研究は、間違いなく先史時代の研究において画期的なものになるでしょう。」

最近の研究の詳細は以下の通りです：

- 「狩猟用メガトラップとしての砂漠の凧の利用：機能的証拠と社会経済・生態系への潜在的影響」レミー・クラサード他著 *Journal of World Prehistory* 誌に掲載。フランス国立研究機構および CNRS 主催のプロジェクト。
- レベッカ・レPPER 他著「アルウラ郡とファラート『ウワリ』(サウジアラビア)の凧」アラビア考古学と碑文学誌にて発表。RCU が主催するプロジェクト。

- アラビアの新しい砂漠の凧と原凧の可能性が狩猟のメガトラップの世界的分布を拡大」オリビエ・バルジ、他著 *Journal of Archaeological Science* 誌に掲載。報告。本記事のカイバルのデータは、カイバル・ロングデュレ考古学プロジェクトによるものです。

凧に関するファクトシートや図を [こちら](#) をクリックしてダウンロードすることができます

アルウラ王立委員会について

RCU は、大自然と文化的重要性を誇る北西サウジアラビアのアルウラの保護開発のために、2017年7月に勅令によって設立されました。RCU の長期計画では、都市と経済の発展に対する責任が伴い持続可能性を配慮したアプローチを概説しており、アルウラの自然と文化遺産を保護するとともに、その地域を魅力ある居住地、勤務地、観光地として確立することを計画しています。これには考古学、観光、教育、芸術、自然、さらにその他への幅広い取り組みが含まれ、サウジアラビア王国のビジョン 2030 プログラムの経済的多様性と地域の活性化、そして遺産保護優先活動への貢献が反映されています。

写真 - https://mma.prnewswire.com/media/1926110/Royal_Commission_for_AIUla.jpg

ロゴ - https://mma.prnewswire.com/media/1926109/Royal_Commission_AIUla_Logo.jpg